

「戦略性が高く、意欲的な目標・計画」 調書

ユニット1	「知のプロフェッショナル」の育成
概要	研究教育を通じた優秀な学生の育成を行い、社会の様々な分野でリーダーとなる人材を輩出するとともに、世界トップレベルの研究力の維持・強化に加え、学術の維持とさらなる発展を促すため、大学院教育改革を行う。
中期目標【I-1-(1)-①】	教育の国際化・実質化・高度化を推進し、初年次教育等の新たな教育プログラムを実装しつつ、前期課程及び後期課程の学士課程を通じ、幅広い教養や総合的判断力等の資質・能力の涵養を図るとともに、専門分野の基礎と社会性を身に付けた人材を育成する。
中期計画【I-1-(1)-①-3】	卓越した学生をより鍛えるため、優秀な学部学生が早期に大学院レベルの教育を受けられるような制度を整える。
戦略性が高く意欲的だと考える理由	(A) 優秀な意欲ある学部学生が早くに大学院レベルの教育を受けることで、その能力をより高く伸ばし、進学後の大学院教育における「知のプロフェッショナル」の育成への接続を円滑にするとともに、世界トップレベルの「国際卓越大学院」における高度な研究活動を行えるようにする先駆的な取組である。具体的には、優秀な意欲のある学部学生を選抜し、通常の卒業要件に加えて特別なプログラムの履修、さらに優秀な学部学生には大学院レベルの教育課程の履修を可能とし、引き続き、大学院課程に進学する学士・修士一貫の教育プログラムを構築し、優秀な学生を、多様な学術を開拓し牽引しうる人材や国際社会のさまざまな分野で貢献しリーダーとなりうる人材に誘導する意欲的な取組である。
(参考)平成27年度以前	
中期目標【I-1-(1)-②】	大学院では、修士・博士・専門職学位の各課程において、自ら考え、新しい知を生み出し、人類社会のための知の活用を目指して行動する意欲満ち溢れた人材（「知のプロフェッショナル」）を育成する。
中期計画【I-1-(1)-②-2】	「知のプロフェッショナル」育成の先駆的な試みとして、修士・博士一貫の部局連携型学位プログラム「国際卓越大学院」を創設し、世界トップレベルの研究体制の魅力を活かして、世界中から優秀な人材を集める。さらに、産官学のネットワークを活かし、優秀な社会人の研究能力を強化する仕組みも整備する。
戦略性が高く意欲的だと考える理由	(A) 新たな知の創造と活用を主導する「知のプロフェッショナル」を育成するとともに、世代と立場を超えた人材交流・共同研究のハブとなる世界最高水準の教育力と研究力を備えた学位プログラムを我が国で先駆けて検討・構築する。具体的には、学術融合や分野横断的な研究等をキーワードにして、複数の部局が連携した教育プログラムの構築や、産業界等と連携した社会人入学や大学院学生の企業等での研修、本学の優秀層の学生（海外の優秀な学生を含む）の選抜等の取組を組み合わせた大学院教育プログラムを構築する。
(参考)平成27年度以前	

ユニット2	多様性を活力とする卓越した教育研究の実施
概要	多様性を活力とする卓越した教育研究の基盤を充実するとともに、女性教員比率や女性幹部職員登用率の向上などの教職員構成の多様化推進を目指す。
中期目標【I-2-(2)-①】	研究の多様性を促進しつつ、研究競争力を世界主要国と比肩しうよう適正かつ機動的な予算確保及び教員配置に努め、研究環境の整備を推進する。
中期計画【I-2-(2)-①-1】	教員人事に関しては、国籍性別等の区別なく、世界最高水準の人材を集め、学問分野の多様性を確保すると同時に、異分野間の融合を推進することも念頭に置き、資源を適切に配分する。また、際立った研究成果に対するインセンティブの付与、教員の処遇の弾力化などを推進する。
戦略性が高く意欲的だと考える理由	(A) 研究競争力を世界主要国と比肩しうよう適正かつ機動的な資源配分及び教員の処遇の弾力化に努め、世界最高水準の多様な人材を集めるとともに、本学の特色・強みである学問分野の多様性を生かし、異分野間の融合を推進しようとする全国でも数少ない取組である。
(参考)平成27年度以前	
中期計画【I-2-(2)-①-2】	卓越した若手研究者が、安定性のあるポストに就きながら、産学官の機関や分野の枠を越えて、独創的な研究に専念できる環境の整備を組織的に行い、それに必要なポストとして300ポストの確保及び若手教員比率を28%以上とすることを旨とする。また、研究者の多様化推進の観点から、組織的に社会人の研究者や外国人研究者、女性研究者の積極的な採用と育成に重点を置くとともに、将来の研究を担う女子学生や留学生に対して明確なキャリアパスを示し、修士・博士課程への進学を奨励する。
戦略性が高く意欲的だと考える理由	(A) 全国に先駆けて導入を図ってきたクロスアポイントメント制度、承継教授の財源を活用し年俸制助教が雇用できる制度などのさらなる活用や全国に先駆けた卓越した若手研究者の雇用制度の導入などにより、卓越した若手研究者の安定性のあるポストを確保し、産学官の機関や分野の枠を越えて、独創的な研究に専念できる環境の整備を行う意欲的な取組である。
(参考)平成27年度以前	
中期目標【II-1-②】	多様性に富み活力ある教職員組織を構築する。
中期計画【II-1-②-2】	性別、年齢、国籍、障害の有無等にとらわれず、能力・適性に応じた雇用・人事を行い、教職員の多様性を高める。男女共同参画の促進や国際化の推進の観点から、組織的に女性教職員や短期間の招聘を含めた外国人教員の割合を高めていく。教員に関しては、女性教員比率を25%まで高めることを目指していく。特に、「若手教員の雇用に関する計画」に基づき、若手女性教員の安定的なポストを確保していく。また、職員に関しては、就労環境の改善を推進し、女性幹部職員の登用率を20%にすることを目指していく。
戦略性が高く意欲的だと考える理由	(B) 海外有力大学と比較して低くなっている女性の教員比率や女性の幹部職員登用率について、多様性に富み活力ある教職員組織を構築するため、現状の女性教員比率16.2%（平成26年5月現在）、女性幹部職員登用率9.9%（平成26年7月現在）から、それぞれ25%と20%と高い目標を目指すものである。

	(参考) 平成 27 年度以前	
--	-----------------	--

ユニット3	大学のイノベーションエコシステムの充実
概要	産業競争力強化法に基づく認定特定研究成果活用支援事業者に対する必要な資金の出資並びに人的及び技術的援助の業務を、様々なベンチャー支援機関等と連携して行うなど、大学のイノベーションエコシステムの充実に貢献する。
中期目標【I-4-①】	大学によるイノベーション活動の世界拠点化のため、産業競争力強化法に基づく認定特定研究成果活用支援事業者に対する出資事業を行うとともに、人的及び技術的援助等を通じて、大学における技術に関する研究成果の事業化及び教育研究活動の活性化を図る。
中期計画【I-4-①-1】	ファンド・オブ・ファンズまたは共同投資等を通じた、既存ベンチャーキャピタル事業者への切れ目ない資金提供等の取組を実施する認定特定研究成果活用支援事業者の活動を通じて、大学のイノベーションエコシステムの充実に貢献する。
戦略性が高く意欲的だと考える理由	(A) 全国で4大学しか認定されていない産業競争力強化法に基づく認定特定研究成果活用支援事業者に対する出資事業を、既に形成されている既存のベンチャー支援エコシステムを阻害しないよう、全国唯一のファンド・オブ・ファンズの手法等により実施する取組である。
(参考) 平成27年度以前	
中期計画【I-4-①-2】	大学における教育研究活動を活性化させるため、社会との連携を通して構築された「知の協創の世界拠点」としての東京大学における人材循環を確立するための取組を実施する。
戦略性が高く意欲的だと考える理由	(A) 中期計画I-4-①-1に関連して、産業競争力強化法に基づく資金の出資並びに人的及び技術的援助の枠を超え、研究成果からの技術開発、開発技術の事業化、事業経営、及びこれらへの投資、並びにこれら各者へのコンサルテーションやネットワーキングなど、ベンチャー創出に関わる多様な人材を育成することにより、東京大学の研究成果の事業化を目指すのみならず、研究成果の事業化の社会的価値を高め、更なる研究の進展とその成果によるベンチャー創出という好循環が自律的に進展、充実してゆくこと、すなわち「大学のイノベーションエコシステムの充実」を目指した、他に例をみない意欲的な取組である。
(参考) 平成27年度以前	
中期計画【I-4-①-3】	大学のイノベーションエコシステムを充実するため、様々なベンチャー支援機関等と連携した取組を実施する。
戦略性が高く意欲的だと考える理由	(A) 中期計画I-4-①-1に関連して、我が国の既存のベンチャー支援エコシステムへの関与が乏しい大企業との連携を積極的に進めてその参画を促すことにより、我が国の産業界の強みを生かし、またその構造転換にも貢献するイノベーションの創出を促進する役割を果たすとともに、ベンチャーキャピタルとの連携を進めるなど我が国全体のイノベーションエコシステムの充実に貢献する先駆的な取組である。
(参考) 平成27年度以前	

ユニット4	効果的な学内資金再配分
概要	学内資金の効果的な配分を行うとともに、財源の多様化を連動させつつ、大学の事業費に占める総長の裁量による配分資金割合を増加させる。
中期目標【Ⅲ-2-①】	効果的な学内資金配分を行い、限られた資金を有効に利用する。
中期計画【Ⅲ-2-①-1】	教育研究分野の多様性や特性及び財務の透明性確保に配慮しつつ、財務データを最大限活用した学内資金の効果的な配分を行うとともに、財源の多様化を連動させつつ、大学の事業費に占める総長の裁量による配分資金割合を増加させる。
戦略性が高く意欲的だと考える理由	(C) 限られた資金を有効活用するため、財務の透明性を向上させつつ、総長のリーダーシップにより大学の活力を最大限発揮できる戦略的な資金再配分システムを構築し、総長の裁量による配分資金を拡大させるという高い目標を掲げる取組である。
(参考) 平成27年度以前	